風水害及び地震時の注意点

（風水害）

※緊急地震速報が流れたら数秒以内に物が落ちてこない空間に移動する。

※家具や家電、窓ガラスや照明器具の落下を避けられる場所へ

※頑丈な机の下にもぐる。クッションやカバン雑誌等で頭を守る。

※自分の安全を確保してから情報を確認・テレビ・ラジオ・携帯無線・施設の管内放送

※あなたの寝室は大丈夫ですか？就寝する位置で、天井やまわりを見回してみて下さい。

※小さな子供と離れた部屋にいる場合は、子供の名前を呼ぶのはちょっと待って。
（子供は揺れている時でもどうにかして来ようとする為。）

※火を使用している時に強い地震時に慌てて火を消しに行かない。
（落下や引火・着衣着火ややけどの危険の為、揺れがおさまってから慌てずに火の確認）
（ガスメーターは震度５相当以上の地震で自動的に供給を遮断する。）

※日頃から、避難経路の確認をすること。

※ガスメーターだけじゃなく、震度４以上の揺れを感知すると自動的に消火する感震
機能の付いたコンロ台も普及している。

※火を使用している付近に、燃えやすい物などは絶対に置かない事。

※外出中屋外で地震を発見した場合は、窓ガラスやブロック塀から離れる。

※ブロック塀や自動販売機及び看板の倒壊の危険性があり

※古いビルや木造家屋から、ガラスや瓦の倒壊

※広い道路にしゃがんで身を守る。

※広い場所に逃げる余裕がない時は頑丈なビルへ

※地震の揺れがおさまってから電気のスイッチに触らない。

※ガス臭いので、換気扇のスイッチを入れると充満したガスで発火や爆発

※避難時にエレベーターを使用しない、余震や停電で閉じ込められてします。

※エレベーターを利用している場合は、すべての行き先階ボタンを押す。

※日頃から避難口や非常階段や避難経路の確認を心がける事。

※倒壊した家具や家屋に閉じ込められた場合は、硬い物で
周りの壁や配管を叩く。大声を出して外部に助けを求めると
体力を消耗し精神的にマイナスになる為。

※自動車の運転中に地震がきたら、急に止まらない。
徐々に減速し道路左側に車を止めて周囲を注視。
急ブレーキで車を止めると追突されて二次被害の危険性

※出来るだけ避難に車を使用しない。緊急車両の通行の妨げや地震による津波
や渋滞で身動きが出来なくなる為。

※大雨や洪水警報の場合は河川や用水路に近づかない。
水没しているマンホールや側溝にはまる危険性
傘や長い物で路面を突いて確認しながら避難する。
一気に氾濫した川にそのまま流されてしまう為。
地域の水害ハザードマップを確認しておく。
避難時は必ず複数人数・長靴ではなく、運動口での避難。

※雨が止んだ後に車を使わない。
大雨に浸かった車は、電気系統のショートなどによる車両火災や
感電事故の恐れがある為。

※倒壊した建物の中に取り残された人を発見した場合の救出作業は、
複数人で行う事。

※生死を分けるタイムリミットは72時間を経過すると生存率が急激に低下する。
その原因は脱水症状・低体温症ストレスによる感覚遮断が起こる為。
救出したら一番に水を飲ませること。

※地震による火災の過半数は通電火災。(停電が復旧した時にかさいが起こる)
地震で倒壊した家電や電気コードなどが通電でショートし火災が起こる。
(1995年・阪神淡路大震災・2011年・東日本大震災・死者19553名・行方不明2585名)
(2016年4月・熊本地震・死者267名・2018年6月・大阪北部地震

※地震時の火災の約6割が電気関係による火災。
※ライフライン寸断時は1日分2リットルの水を備蓄する。最低3日分必要。
※就寝中の地震に備えて、寝室にスニーカーや懐中電灯や軍手を準備しておく。
※避難時自宅から離れる場合は、必ず戸締りをすること。空き巣被害にあう為。

以上